「三敬精神を胸に，夢や目標に向かって充実した高校生活を送ってほしい」と語る上野一典校長

栃木県宇都宮市にある宇都宮文星女子高等学校

「三敬精神」で自分を知り、他者と向き合い社会との関わり方を学んでゆく

宇都宮文星女子高等学校

（栃木県宇都宮市）

宇都宮文星女子高等学校普通科総合コースでは、マナーや一般常識の指導を実践的な「特別授業」と秘書検定の学習の二本柱で行っている。「生徒の考える良識」と「社会での良識」の差を意識した授業を展開し、生徒が自信を持って就職活動や進学ができるよう、さまざまな工夫を織り交ぜている。同校でのマナー教育の取り組みについて伺った。

自分を大切にできることが他者を敬うための第一歩

宇都宮文星女子高等学校は、昭和4年に宇都宮女子実業学校として創立した。平成8年に現在の校名に変更し、今年創立91周年を迎える。部活動が活発であり、文化部、運動部問わず、全国大会や関東大会などで優れた結果を残している。同校は校訓に、「自己（おのれ）を敬へ、他人（ひと）を敬へ、仕事（こと）を敬へ」の三敬精神を掲げ、その体得実践を目指し、心身ともに健康で世界のリーダーたる女性の育成を建学の精神としている。クラスは秀英特進科、普通科、総合ビジネス科の3学科10コースから成り、進学から就職まで幅広く対応する。

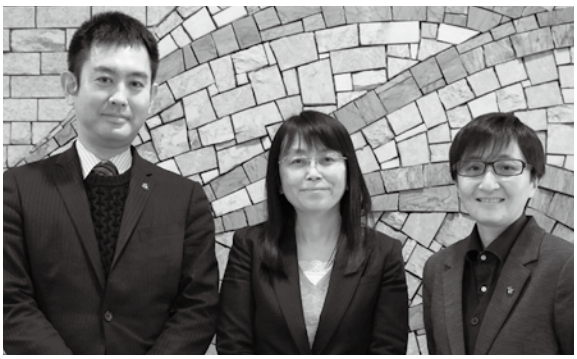
上野一典校長は校訓について次のように話す。

「この校訓は創立時から今に至るまで本校が大切にしてきたものです。まずは自分をしっかりと持ち、自分の目標のために努力し、自分を大切にできなければ、他人を大切にできません。ですので、人に誇れる自分をつくることが第一、人のよいところを見つけ敬うことが二番目にあるのです。そして仕事、つまり自分の成すべきことをしっかり成せる人間になること。この三敬精神は入学式などできちんと話して伝えるだけでなく、毎朝唱え、生徒が三年間でこれを実践できるようになることが本校の目標です」。

今回ご紹介する普通科総合コースは、教科の学習に加え、社会に出てから必要とされるマナーや常識、教養なども兼ね備えた人間の育成を目指している。本コースの生徒の半数は就職希望者であり、普通科目を学びながら就職に向けた準備を進める。そのための授業が「総合」である。秘書検定に加え、外部講師を招いてマナーを実践的に学ぶ特別授業など、総合コース独自のカリキュラムが組まれている。

例えば、外部講師を招いて行う講座には、スーツの着こなし方講座やメーク講座がある。スーツの着こなし方講座では、スーツメーカーの担当者を講師に迎え、場面ごとの着こなし方やスーツの保存方法、洗い方まで詳しく学ぶ。メーク講座では、講師の指導の下生徒一人一人が場面に合わせた化粧の仕方を学ぶ。

山口ゆみ先生はこうした授業を行う理由として、生徒の持つイメージと実社会の間にある



（左から）宗岡祐樹先生，山口ゆみ先生，會田奈緒先生

ギャップを指摘する。「例えば、『ナチュラルメーク』と聞いたときに、生徒はほとんど化粧をしていない状態を思い浮かべます。講師に実際に教えてもらいながら化粧をしてみることで、どのような状態が働くときの化粧の仕方なのかを理解してもらうようにしています」。

宗岡祐樹先生はこう続ける。「生徒たちが思っているやり方が、必ずしも就職活動や働くときに求められるものと一致しているとは限りません。普段の学校生活の中だけでは習得できないＴＰＯに合わせたマナーの知識を、卒業するまでにきちんと身に付けてもらうためにこうした機会を設けているのです」。

生徒の良識と社会の良識の差を埋めていく

「総合」の授業では実践的な学習と並行して、授業に秘書検定の学習を取り入れている。２年次に３級、３年次に２級合格が目標だ。

秘書検定を導入した理由について山口先生は、「高校生の就職活動において、普通科の生徒が商業科の生徒と肩を並べるには、普通科ならではの検定や資格を持っている必要があります。そこで、社会に出て求められるマナーや一般常識を学べる秘書検定を授業で指導しているのです」と説明する。

指導を担当する會田（あいだ）奈緒先生は、授業の進め方を決めるときに、まずその学年の特徴を見るという。集中力や「秘書検定はどういったことを学ぶものなのか」を理解する深度は、学年ごとに違う。授業の導入部分までは共通だが、それ以降の授業内容は、教員が過去問題を学年の特徴に合わせてアレンジして解説しているのだ。使用するテキストも『クイックマスター』と『パーフェクトマスター』のどちらかを、学年のカラーに合わせて採用する。

また、指導するに当たって注意を払っていることがある。それは「生徒が考えている良識と社会人としてのマナーや良識の差を埋める」ことだ。宗岡先生の話にもあったが、生徒の考える良識と、社会で実際に求められる良識の間に差がある場合がある。

會田先生が特に差が大きいと感じているのは「メール・ＳＮＳの使い方」について。例えば近年、企業内の連絡にもＬＩＮＥが使われるようになってきた。連絡時のマナーを知らなければ、友達とやりとりするときと同じように上司や同僚に連絡することも起こり得る。そういったつまずきがないように、授業では電話やメール、ＳＮＳの使い分けから、それぞれどのように相手に伝えるのがよいのかといったことを、生徒にとって身近な例を交えて説明する。

「生徒は普段、自分を中心に物事を考えていますが、社会ではそういうわけにはいきません。授業でよく話すのは、メールやＬＩＮＥの返信について。生徒たちはＬＩＮＥが既読にならなかったり、すぐに返信がなかったりすることを不満に感じますが、それは『早く返信すること』が生徒にとっての良識だからです。言い換えれば、自分軸で考えているということ。本来は送った側ではなく、受け取った側の都合で返信をするのが当たり前です。連絡に限らず、立ち居振る舞いや物事の進め方なども他人軸の視点が必要です。身近で分かりやすい説明を心掛け、差を埋められるように指導しています」（會田先生）。

山口先生は、秘書検定や実践的な授業を通し

［上］特別授業「浴衣の着付け講座」では，着付けや浴衣の扱い方，浴衣での所作について学ぶ

［左］特別授業「メーク講座」。クラスメートがメーキャップしていく過程に，皆真剣な眼差しを向ける

最新事情㊽……宇都宮文星女子高等学校

て生徒に「自分を確立し、社会との関わり方を知ってほしい」と話す。

「マナーや社会常識が自分に関わる問題だと分かると、生徒は自分に何が足りないか、どのように他者に相対すればよいかを意識的に考えられるようになります。三敬精神の通り、まずは自分を知り、大切にする方法を知ることから始め、相手を大切にする関わり方を身に付けてほしいと思います」(山口先生)。

身に付けた知識や技能を普段から実践する

普通科総合コースに所属する中村彩未(あやみ)さんと菅海咲希(かんみさき)さんは3年生。2年次に秘書検定3級に合格した。

授業時間以外にも、それぞれ自分に合った学び方を見つけて取り組む二人。中村さんは問題の答えに納得がいくまで考えて進めている。

「朝早く登校したり、部活を終えて帰宅してから自習する時間を取るようにしています。テキストは何回も読み、プリントで問題を繰り返し解きました。問題の中には、なぜそれが正解なのかうまく消化できないものもあります。そういうときは両親に尋ねて、社会人としての姿勢や考え方を教えてもらいました。言葉遣いは覚えることも多く難しかったのですが、声に出して読み、普段の生活の中で自然と出てくるように練習しています」(中村さん)。

菅さんは授業で学んだことを普段の学校生活の中で実践することで、立ち居振る舞いを自分のものにしている。

「背筋を伸ばして姿勢よく立つことや相手に対するときの態度、言葉遣いを学んでいても、それが身に付いていなければ、いざというときに発揮できないと思います。そこで、勉強したことは普段からやるようにしています。例えば、先生に提出物を渡すときは先生の方を見て話したり、動作と言葉を分けるようにします。他にも、先生にはきちんとした敬語で話し掛けて、敬語で話すことに慣れるよう努力しています。間違った言葉遣いをしてしまったときに自分ですぐに気付けるようになってきました」(菅さん)。

自分に合った勉強の仕方で知識や技能を習得していく中で、どのような成果を実感しているのだろうか。中村さんは、言葉遣いや話し方、伝え方を学んだことで、先生とのやりとりがスムーズになったと感じているそうだ。

「今までは、伝え方を意識できていなかったり、正しいと思っていた言葉遣いが間違っていたりといったことがありました。例えば、先生に伝えたいことがあって話していても、『それはつまりどういうこと?』と聞き返されることが多かったのです。それが今では少なくなり、言いたいことが伝わるようになったのはうれしいですね」と笑顔を見せ、こう続ける。

「演劇部で活動していますが、大会などでは他校の先生や関係者の大人の方と接する機会があります。そこで明るいあいさつができているか、失礼な言葉遣いをしていないか、さらに気を付けていきたいです」(中村さん)。

菅さんは将来、日本の伝統文化に関する仕事をするという夢を持っている。秘書検定での知識を「自分も周りも笑顔で働くため」に生かしていきたいと目を輝かせる。

「社会人にとって働くことは義務。けれど義務だから仕方なく働くのではなく、その仕事をやりたいと思って楽しく働いた方が気持ちがいいし、長く働き続けられると思います。やらなければならないからこそ、自分も周りも笑顔でいられるように、相手に嫌な思いをさせないために、今からきちんと立ち居振る舞いや言葉遣いを身に付けておきたいですね」(菅さん)。

3年次には2級に合格することが目標だという二人。残りの高校生活の中でさらに多くのことを学び、自分の力にしていく未来が、その表情からうかがえた。

(左から)菅海咲希さんと中村彩未さん。「秘書検定2級は,3級よりも一歩踏み込んだ内容だと感じています。分からないところは先生や家族に質問して,合格を目指します!」(菅さん)